

(参考様式4)

事業活用活性化計画目標評価報告書

活性化計画名	畝倉地区活性化計画			
計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
宮崎県・えびの市	452092	1	平成22年度～平成24年度	平成22年度
活性化計画の区域				
畝倉地区（宮崎県えびの市）				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率(%) B/A	備考
定住等の促進に資する基盤整備の円滑化	1年	1年	100%	

(コメント)

地元での合意形成を図りつつ、基盤整備事業の着手に向け、平成22年度中に地元における事業採択の申請を実施し、活性化計画期間内（平成23年度）に採択となり事業着手することができた。

2 目標達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
農用地等集団化	経営体育成促進換地等調整事業 19.6ha		えびの市
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
—	平成22年度	平成22年度	—
事業の効果			
区域内農業者へのアンケート調査や、話し合い等を重ねることにより、農用地の集団化や担い手への利用集積を図り、農業の振興及び定住等の促進を目的とした活性化計画を策定し、本計画に基づく基盤整備事業への取り組みが始まった。			

3 総合評価

(コメント)

事業により、これからの農地を守るには、基盤整備を行い農地を集団化することが必要との意見に達したことから、合意形成等を進めることで、事業採択に向けた取り組みができた。

また、平成23年度に事業採択となったことで、目標に向けた取り組みをスタートさせることができた。

4 第三者の意見

(コメント)

本地区は、高台にあるため水源に乏しく、圃場も不整形であり、農地条件は劣悪である。本事業により、地区内住民に対するアンケート調査や話し合いの場を持つことができ、それをもとに農用地の集団化や利用権の集積を図り、地域農業振興と定住促進を目的とした活性化計画を策定することができた。それにより23年度の事業採択につながっている。事業実施により、農地流動化・団地化による規模拡大、新規作目の導入などの地域農業の発展が期待される。

(九州大学大学院農学研究院 教授 福田 晋)